



第61回 定時株主総会

2019年10月29日（火）

貴金属表面処理加工分野の
リーディングカンパニー



市場：東証JASDAQ
証券コード：3441

株主のみなさまへお願い



会場内では、
スマートフォン・タブレット
など情報機器の電源をお切り
いただくか、
マナーモードにしてください。

会場内での
「喫煙」、「撮影」、
「録音」は ご遠慮ください。



入場票のご説明

- ご出席番号票は、株主総会終了までお持ち下さい。
- ご発言の際は、ご出席番号票に記載の番号とお名前をお申し出ください。
- 再入場の際は、ご出席番号票が必要となります。ご出席番号票を受付にてご提示下さい。

開 会

議決権数

2019年7月31日現在：発行済株式総数

5,000,000株

*** 自己株式384,050株含む**

本総会において議決権を有する株主数

3,240名

議決権数

46,143個



監査報告

監査報告

取締役
常勤監査等委員

渡邊 和久

▶ 事業報告

1. 企業集団の現況に関する事項

(1) 当事業年度の事業の状況

▶ 事業報告

1. 企業集団の現況に関する事項

(1) 当事業年度の事業の状況

① 事業の経過及びその成果

景気低迷基調

世界

- ▶ 米国：米中貿易摩擦の激化に伴い、
製造業を中心に景気が減速
- ▶ 欧州：米中貿易摩擦に加え、英国のEU離脱問題等の
政治リスクの高まりから、景気低迷感が強まる
- ▶ 新興国：中国では一段と景気が悪化、
製造業の生産活動にも停滞感が強まる

日本

- ▶ 中国経済の変調に起因し、中国向けを中心に輸出が悪化
- ▶ 企業の投資意欲が減少する等、企業活動に影響が
波及している状況

① 事業の経過及びその成果

当社グループが属する電子工業界
総じて厳しい事業環境

- ▶ 産業機器分野での生産調整やスマートフォン減産
- ▶ 車載分野でも、米中貿易摩擦の激化を受け、
最大市場である中国市場で減産

① 事業の経過及びその成果

当社グループの取り組み

一層の生産性向上・合理化を図る



- ▶ 鈴川工場のめっき生産機能を東北工場に統合
- ▶ プレス・めっき一貫生産体制の強化のため
秦野工場のプレス量産機能を東北工場に集約
- ▶ 新製品受注に向けた新ライン建設のため
東北工場に先行投資

① 事業の経過及びその成果

売上高

7,101百万円

(前年同期比 : ▲ 15.3%)

営業損益

▲ 344百万円

(前年同期は営業利益129百万円)

経常損益

▲ 410百万円

(前年同期は経常利益85百万円)

親会社株主帰属
当期純損益

▲ 625百万円

(前年同期は親会社株主に帰属する当期純利益44百万円)

1. 企業集団の現況に関する事項

2～3 ページ

- ② 設備投資の状況
- ③ 資金調達の状況

**に関する各項目については
お手許の招集ご通知をご覧ください**



（４）対処すべき課題

(4) 対処すべき課題

当社グループの基本理念

「表面処理で社会のインフラを支え、
人々の暮らしの安全、便利な社会の実現に貢献する」



- お客様のご要望に応えることで、企業としての存在価値を高めることに努めていく
- 関係法令を順守し、社会的責任を果たすことを目指す

(4) 対処すべき課題

中長期的な会社の基本戦略

持続的な成長を果たしていくために

- ① 成長する市場への受注対応力強化
- ② 合理化による生産性の改善
- ③ 教育の強化と人材の活用
- ④ 海外子会社の機能強化
- ⑤ 新規事業の立ち上げ

中長期基本戦略①

① 成長する市場への受注対応力強化

微細加工の新たな市場が成長

情報通信分野をはじめとした技術の潮流
＋
電子機器の小型化・高機能化による技術革新

東北工場に新設備の増設と微細加工技術を導入し、
お客様が求める高度な要求に対応

受注の拡大

中長期基本戦略②

② 合理化による生産性の改善

経営資源の効率的な配分を目的に
東北工場に表面処理加工の拠点統合を推進
+

プレス・めっき一貫加工のリードタイム短縮、
省人化設備の導入など、主力となる東北工場
に積極的な設備投資

自動化設備の導入や既存設備の改造などにより、
生産性の更なる改善へ

中長期基本戦略③

③ 教育の強化と人材の活用

新規設備の導入、新たな技術の展開を推進

基盤となる人員の育成が重要

- ・ 生産現場での実践的な教育と全社的な階層教育を強化
- ・ 創意工夫を得意とする開発志向人材の積極的活用、育成を推進

中長期基本戦略④

④ 海外子会社の機能強化 中国、フィリピンの海外生産拠点

今後の対応が難しい事業環境

中国：環境規制の強化による新たな設備対応

フィリピン：税制改正による経済特区税制優遇の見直し等を予定

日本からの支援を強化し、
グループ経営の強化を進める

中長期基本戦略⑤

⑤ 新規事業の立ち上げ 事業化を目指して開発中

2019年度再採択

国立研究開発法人 産業技術総合研究所
福島再生可能エネルギー研究所
「被災地企業等再生可能エネルギー技術
シーズ開発・事業化支援事業」

水素透過膜

- 小型化、事業化を推進
- インフラの普及、
再生可能エネルギーの普及へ貢献

銀めっきアクリル粒子

- 導電材料としての製品サンプル評価を進める
- 太陽光パネルの接続材料、電子機器の接続の早期事業化に向けて対応を加速

今後とも変わらぬ
ご支援を賜りますよう
お願い申し上げます。

1. 企業集団の現況に関する事項

3～6ページ

- (2) 財産及び損益の状況の推移
- (3) 重要な親会社及び子会社の状況
- (5) 主要な事業内容
- (6) 主要な営業所及び工場
- (7) 使用人の状況
- (8) 主要な借入先の状況
- (9) その他企業集団の現況に関する重要な事項

**に関する各項目については
お手許の招集ご通知をご覧ください**

2. 会社の現況

7～17ページ

- (1) 会社の株式に関する事項
- (2) 会社の新株予約権等に関する事項
- (3) 会社役員に関する事項
- (4) 会計監査人の状況
- (5) 業務の適正を確保するための体制
及び運用状況の概要
- (6) 剰余金の配当等の決定に関する方針

**に関する各項目については
お手許の招集ご通知をご覧ください**

▶ 第61期連結計算書類の 内容報告の件

貸借対照表（連結）①（資産・負債・純資産）

（単位：百万円）

科目	金額	科目	金額
流動資産	6,243	流動負債	2,481
固定資産	3,063	固定負債	2,546
有形固定資産	2,446	負債合計	5,027
無形固定資産	25	純資産合計	4,279
投資その他の資産	591		
資産合計	9,307	負債・純資産合計	9,307

（2019年7月31日現在）

貸借対照表（連結）②（純資産）

（単位：百万円）

科目	金額
株主資本	3,660
資本金	962
資本剰余金	870
利益剰余金	1,953
自己株式	△125
その他の包括利益累計額	618
その他有価証券評価差額金	116
為替換算調整勘定	503
純資産合計	4,279

（2019年7月31日現在）

損益計算書（連結）

（単位：百万円）

科目	金額
売上高	7,101
営業損益	△344
経常損益	△410
特別損失（固定資産除却損＋減損損失など）	△178
税金等調整前当期純損失	△588
法人税等＋法人税等調整額	36
親会社株主に帰属する当期純損失	△625

（2018年8月1日から2019年7月31日まで）

連結株主資本等変動計算書

20ページをご覧ください。

お手許の招集ご通知をご覧ください

第61期計算書類（単体）

21～23ページをご覧ください。

お手許の招集ご通知をご覧ください

▶ 決算の状況と今後の方向性

2019年7月期業績ハイライト：

国内での売上急減に伴い営業赤字に

売上高7,101百万円



△15.3%

産業機器、通信・民生品分野から
車載向けまで国内受注停滞

営業損失344百万円

△473百万円

想定を超える国内受注の急減速に
対応するも追いつかず

国内：売上急減

中国：環境規制強化による転注を受け増収

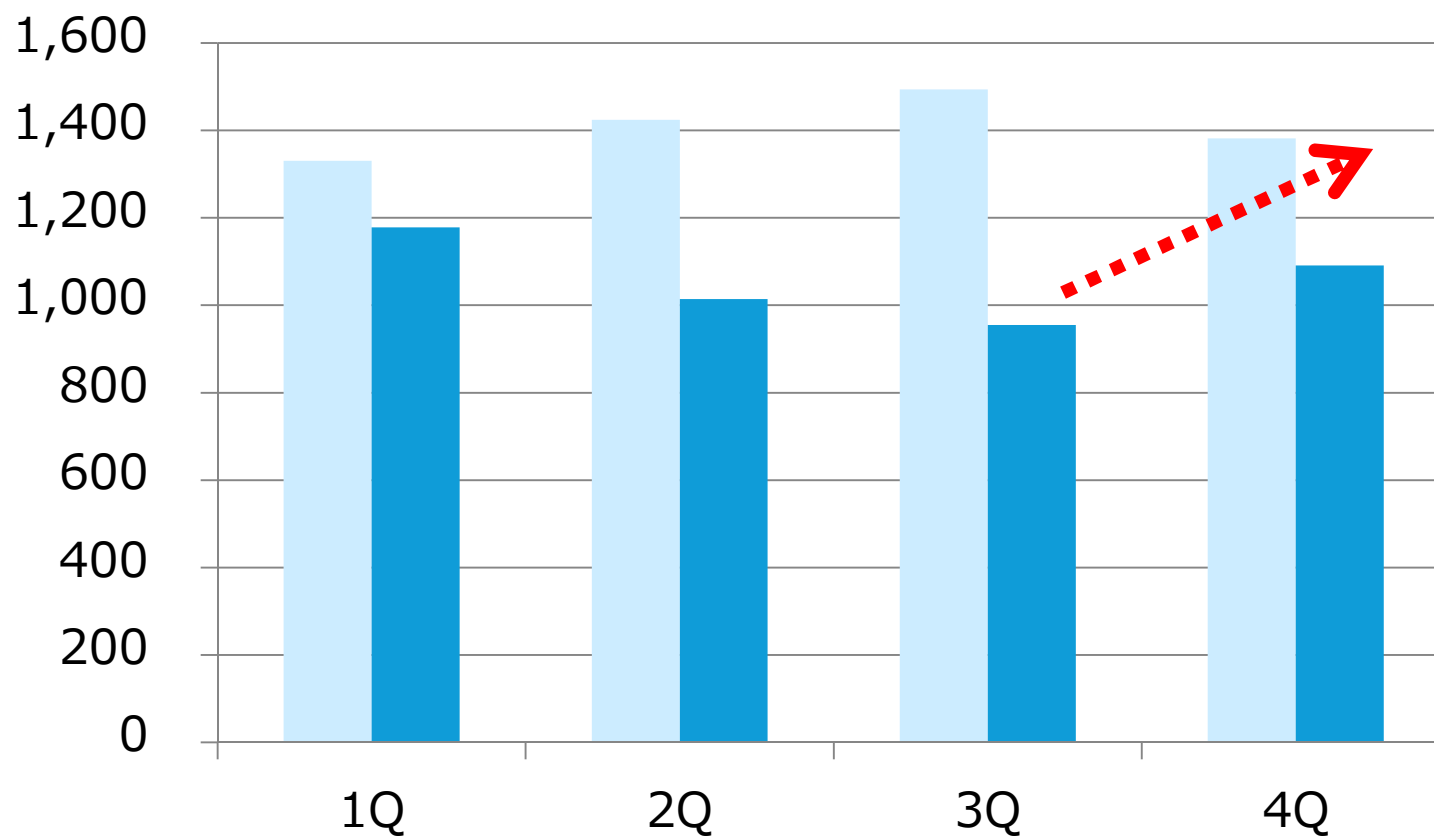
フィリピン：車載分野を中心に増収

国内四半期売上推移：国内受注回復

▶ 第4四半期は国内受注回復

(単位：百万円)

■ 2018/7 ■ 2019/7



2020年7月期及び今後の事業環境

大口需要先・電子部品メーカーからの発注が低迷
足元の受注は弱含み

微細加工対応ラインの増設、プレス設備の増設など

生産拠点の統合



**2020年7月期：緩やかな増収で、
採算性を回復、売上確保へ**

2020年7月期 業績見通し

厳しい事業環境の下、採算性確保に全力

▶ 売上高 : 73億円 (+2.8%)

▶ 営業利益 : 10百万円

▶ 当期純利益 : 10百万円

(単位：百万円)

	2019/7 実績	2020/7 計画	増減額	前期比 (%)
売上高	7,101	7,300	+199	+2.8%
営業利益	△344	10	+354	—
経常利益	△410	10	+420	—
親会社帰属 当期純利益	△625	10	+635	—

山王の強みと課題

強み

安定した技術にもとづく信頼性

環境対応などグローバルな高品質性

60余年の歴史で培われた

国内主要電子部品メーカーとの協力関係

課題

商品力強化

コスト対応力強化

開発力強化

目標達成のための施策①

商品力強化

めっきライン新設による加工体制の強化

試作短納期対応
少量多品種対応
量産超高速化対応

プレス・めっき一貫生産強化

プレス機増設
隣地生産による受注力強化

目標達成のための施策②

コスト対応力強化

＜コスト構造改革 工場統合＞

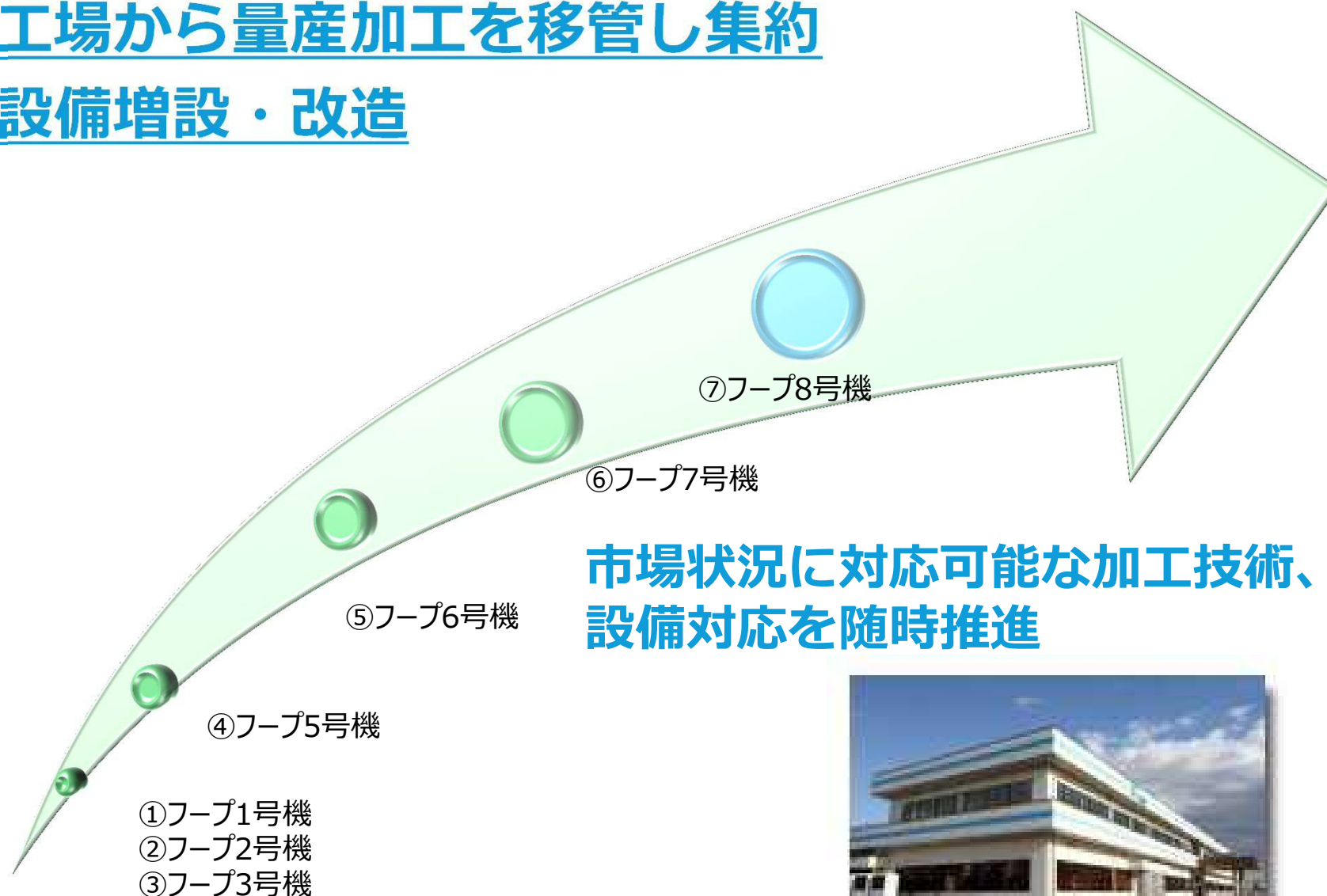
- ◆鈴川⇒東北へ量産移管
- ◆めっき加工ラインの改造・新設
- ◆秦野⇒東北へ量産移管・プレス機移設
- ◆めっき加工治具変更、膜厚管理の強化による材料費低減

開発力強化

既存分野の研究・開発機能の強化
教育強化

東北工場 めっきライン

鈴川工場から量産加工を移管し集約 量産設備増設・改造



**市場状況に対応可能な加工技術、
設備対応を随時推進**



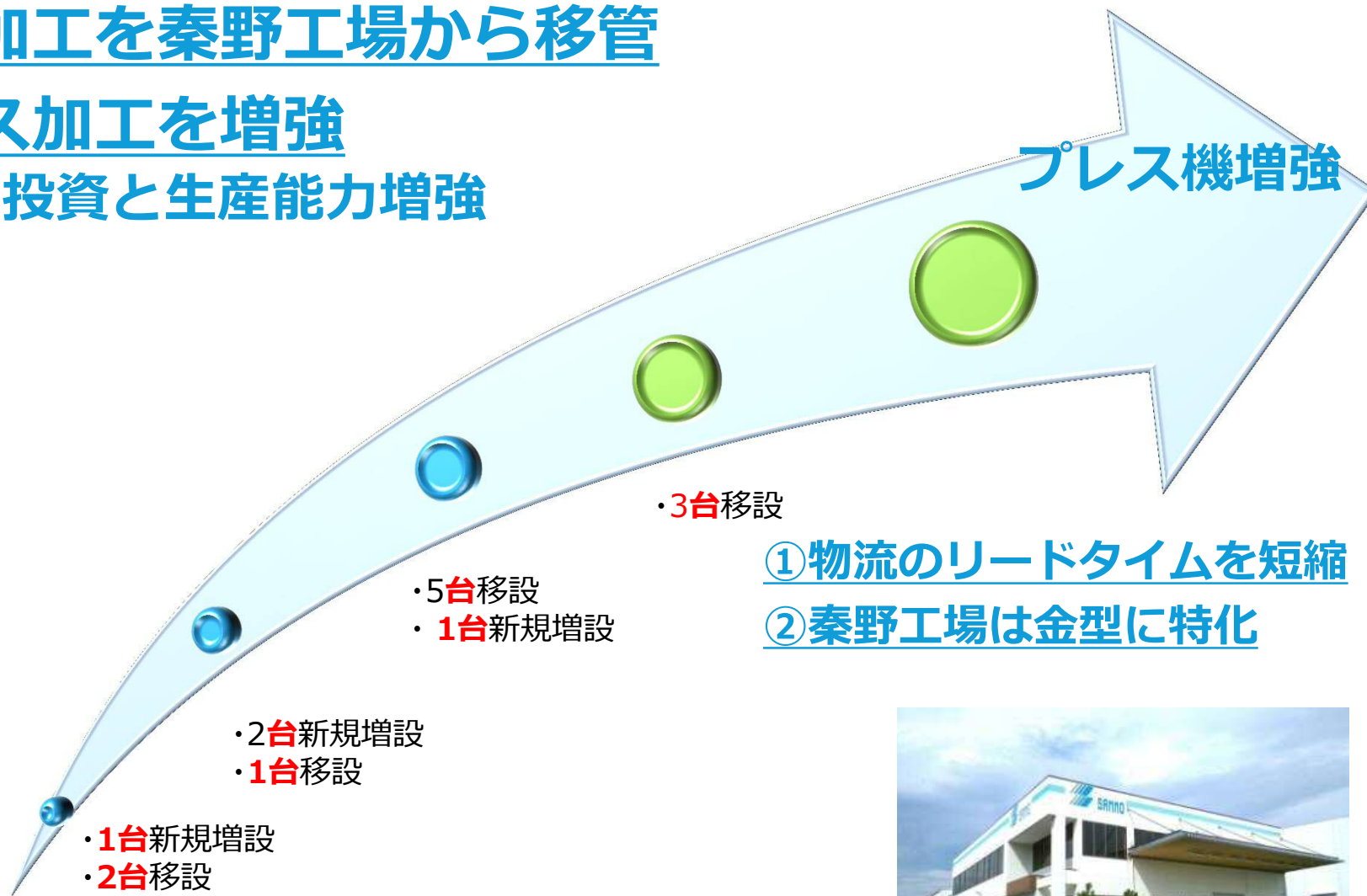
東北工場 プレス加工部門

量産加工を秦野工場から移管

プレス加工を増強

省人化投資と生産能力増強

プレス機増強



① 物流のリードタイムを短縮

② 秦野工場は金型に特化



資本（配当）政策について

当社の経営課題：企業価値の向上

業績の回復と安定したキャッシュフローの創出



将来のキャッシュフロー創出に向け 投資強化へ



▶ 2019年7月期：成長投資優先で「無配」

▶ 2020年7月期：引き続き「無配」を予定



決議事項

第1号議案

取締役（監査等委員である取締役を除く。）5名選任の件

1 こうやま ふみなり
 甲山 文成
 (現任)

2 みうら ひさし
 三浦 尚
 (現任)

3 あらまき たくや
 荒巻 拓也
 (現任)

4 いのうえ てつや
 井上 哲也
 (現任)

5 はまぐち かずお
 浜口 和雄
 (現任)

第2号議案

監査等委員である取締役3名選任の件

- | | | |
|---|------------------------------------|-------------------|
| 1 | わたなべ
渡邊
(現任) | かずひさ
和久 |
| 2 | ひご
肥後
(新任) | はるき
治樹 |
| 3 | かみお
神尾
(新任) | さとし
諭 |

第3号議案

補欠の監査等委員である取締役1名選任の件

さとう かつひろ
佐藤 克洋
(現任)



▶ ご発言・ご質問

お願い

- ご質問のある株主様は挙手いただき、指名されましたら左右いずれかのマイクにお進み頂きご質問ください。
- **ご出席番号票とお名前**をお知らせください。
- なるべく多くの株主様からご質問をいただきたく、関連質問も含めて**お一人様3問まで**のご質問でお願い致します。



議案採決

決議事項 第1号議案

取締役（監査等委員である取締役を除く。）5名選任の件

決議事項 第2号議案

監査等委員である取締役
3名選任の件

決議事項 第3号議案

補欠の監査等委員である取締役
1名選任の件

閉 会

取締役のご紹介

第61回 定時株主総会

ありがとうございました。
これからも株式会社山王を引き続きご支援賜りますようお願い申し上げます。

貴金属表面処理加工分野の
リーディングカンパニー



市場：東証JASDAQ
証券コード：3441